



5/14

東京新幹線車両センターで事故停電発生

あわや感電事故に！

概要 | 5月14日16時30分頃、東京新幹線車両センター庫1番線、研究開発センターによる屋根上、床下作業あり。車両放電処置のためPan（パンタグラフ）「上昇」、EGS（保護接地スイッチ）「投入」扱い。作業終了後、技術管理担当者は床下作業終了を外勤主任に連絡。外勤主任は断路器投入の際、ITV（カメラ）により屋根上Pan「降下」を確認後、断路器操作をするところ、確認せずに投入し事故停電発生！

JR東日本輸送サービス労働組合

2025.5.26

東京新幹線車両センター分会

東幹セにて事故停電発生！ あわや感電事故！

2025年5月14日、東京新幹線車両センターの屋根上撮影作業と、床下作業を同時に行っていたところ、技術管理の担当者が立ち会いを行い、断路器を投入したところ事故停電が発生し、EGS入り状態で断路器を投入してしま...

問題点その① 事実関係

断路器操作前後の技術管理の担当者が明らかにされていません。点呼で確認されているのみです。

事実関係が明らかにされなければなりません！

チーム東幹セ全員で原因究明で議論していくべきです。

問題点その② 隠蔽

5月22日に暫定対策が途中どのような議論があったのか。事故停電は一つ間違えれば重大な事故に発展していた。議論過程は詳細に周知して...

問題点その③

暫定対策とは別に、安全な職場をつくるために、二度と同事象を起さないために、会社は「隠蔽」せず事実を明らかにし、真の原因究明と再発防止策をたてるべきだ！

会社線において事故停電が発生し、作業を同時に行っていたところ、技術管理の担当者が立ち会いを行い、断路器を投入したところ事故停電が発生し、EGS入り状態で断路器を投入してしま...

5月27日から定例訓練の中で、5月14日に発生した東幹セにおける事故停電について管理者から説明がありました。時系列や暫定対策などが説明されました。しかし、当時作業していた研究開発センター、技術管理室担当者、外勤担当者の間でどのようなやりとりがあった、どのように行動したのか全く明らかにされませんでした。事実関係を明らかにしなければ背後要因も明らかにならず本質的な対策は立てられません。

訓練では質疑応答の時間が設けられました。社員からは「担当者間でどのようなやり取りがあったのか不明だ。」「当事者から聞いた話と説明の内容が違う。」「運転台でEGS切パン下け操作はしないのでは？」などの質問が寄せられ、管理者からは「～～と思う。」という歯切れの悪い回答で、言葉の濁す回答に終始しました。何かを隠れていると思いませんか？なぜ命を閉めてパン下けEGS「切」をしようとしたのか？外勤担当者や技術担当者でどのようなやり取りがあったのか？

資料には関係者の記載がありましたが、外勤担当者しか明記されていません。技術管理担当者や研究開発センターも関係しているのは明白です。また、原因についても外勤担当者がITVの確認を怠ったことしか記載がされていません。直接の原因はITVを確認しなかったことにありますが、そこまで至る齟齬があったはずで、外勤担当者だけの問題にするべきではありません。会社は何かを守るようとしているのでしょうか？

全社員で事実に対して議論する場を求めます！人は誰でもエラーを起こすものです。そこには背後要因が必ず存在します。その背後要因を取り除いていくことが、再発させない対策となります。しかし、何が起きたのか、詳細が明らかにされなければ対策などたてられるものではありません。本質的な対策をたてるために全社員で議論し、社員が納得いく対策を立てていくことが重要です！

列車分離に続いて事故停電も隠ぺいするのか？事実関係を隠ぺいせず明らかにするべきだ！

当事者間をめぐって明らかにされない事実関係
質問に管理者「だと思ふ」
現場「何か隠蔽しているのでは」と疑念の声
歯切れの悪い回答

同事象を起こさないために、会社は「隠蔽」せず事実を明らかにし、真の原因究明と再発防止策をたてるべきだ！